5月に向けて

代表取締役　三田雅憲

桜の季節も終わり新緑のまぶしい季節となりました。社員のご家族様はいかがお過ごしでしょうか。

今年4月から長男が入社し、社員諸君のお世話になっていることと思います。

倅が入社するにあたって、25年前に私が光栄プロテックに入社した頃のことを思い出していました。当時は社長の道下と40歳、27歳、25歳の3人の職人がおり、27歳の方が工場長を任されていました。仕事は器用にこなされていましたが、社長の言動の表層のみを真似されて、お客様に対する言葉づかいや同僚、後輩に対する人間的な温かみや精神的な器の大きさのようなものを感じることは難しかったように思います。また会社自体も仕事さえできれば良く、内面の育成や向上心をもたせるような教育に関しては無頓着な部分があったのだと思います。このような中で、私が学校卒業後に入社した会社と光栄プロテックの現状を鑑みた時、将来は仕事のおもしろさを通して人間性を磨くことのできる会社作りがとても重要になってくるであろうと強く感じていました。

現在、光栄プロテックでは、やはりＯＪＴが教育の中心ですが、親身な指導やいろいろなことにチャレンジできる雰囲気、自由に発言できる人間関係など職場環境が少しずつですが整ってきているのではないかと自負しております。これは私が25年前に感じた違和感を少しずつ改善してきたからだと思います。また、納期対応や品質に対する意識の高さは当時の道下社長だけのものでしたが、今は各班長が共通の認識として持ち合わせてくれており、本当に嬉しく思います。

昨年より中小機構の方にご指導いただきながら３Ｓ活動を行っております。仕事以外の分野での整理整頓、清掃意識、ものを探す時間の無駄やとりあえず置いておこうといったスペースの無駄に対する配慮、こうした意識や自主活動の大切さが生産性の向上につながるということを今回各班長が学んでくれました。まだまだ足りない部分もありますが、社員教育の大切さや新しいことのチャレンジを忘れることなく、会社を含め全社員が改善の気持ちでこの一年を乗り越えていきたいと考えております。

千葉工場に関しましても、仕事のない日々がいかに大変であるか、時間の流れがとてつもなく長く感じたとこと思います。この思いを忘れることなく、今年は仕事の納期をより一層の守り、信頼される仕事を積み重ねて『関東・千葉に光栄あり』と言ってもらえるように営業・工場ともども頑張ってほしいと思います。